

特集の趣旨「都市とイノベーション」

国土交通省都市局都市政策課
国土交通省都市局まちづくり推進課

近代における都市計画は、産業革命により発達した。

産業革命は農村から都市への大量な人口流出を引きおこし、都市インフラの整備不足や衛生環境の悪化、混在する住宅と工場など、様々な問題が噴出したのである。こうした問題に対処するために発達したのが近代都市計画であり、都市の発展は、技術革新とともに歩んできた歴史ともいえる。

そして時は越え、現代、世界は第四次産業革命と呼ばれる新たな技術革新のフェーズを迎えている。IoT (Internet of Things)、AI などの先端技術を活用した新たなソリューションは、私たちの生活のあり方を大きく変えようとしている。

欧米・アジア諸国との都市間競争が激化する中、本格的な人口減少社会を迎える我が国が、人や企業を惹きつける「磁力」を高めていくためには、こうしたイノベーションを連鎖的に創出しながら、そのソリューションを都市に実装するという好循環を実現していく必要がある。

そのためには、異なるバックグラウンドを持つ多様な人材が交じり合いながら、イノベーションの源泉となる空間づくりを進めていくとともに、生み出されたソリューションを最大活用し、都市が抱える諸課題を解決していくスマートシティの実現を、車の両輪として進めていくことが求められている。

こうした背景から、今号の新都市では、「都市とイノベーション」をテーマに、「スタートアップとまちづくり」と「スマートシティへの取組」について特集させていただくこととした。

「スタートアップとまちづくり」については、産業活動の新たな担い手としてスタートアップ企業やそれを支援する取組が拡大していることなどから、各都市におけるスタートアップへの取組とその源泉となる空間づくりについて、国内外における事例を中心に紹介させていただくこととした。

海外事例としては、あらたな雇用の創出を目指しスタートアップシティとして成長を続けるニューヨーク市における取組を紹介する。

また、国内事例としては、東京、福岡、つくば、北九州それぞれの都市における取組事例について紹介する。

「スマートシティへの取組」については、行政・民間それぞれのスマートシティの取組について、国内外における事例を中心に紹介させていただくこととした。

先進海外事例としては、デジタル技術により国土をまるごと 3D モデル化し、環境や防災、交通のシミュレーションや、インフラ・エネルギー管理などの幅広い分野での活用を目指している「バーチャル・シンガポール」の取組を紹介する。

また、国内事例としては、地方自治体や事業者の方々の先進取組事例や、国における実証実験の動向について紹介する。